2008年1月6日（日曜日）の講演会のことが

翌日の中日新聞に掲載されました

日本古来の「和算」学ぶ

昭和区 大学教授ら平易に解説

関孝和没後300年記念講演

江戸中期の和算家・関孝和の没後三百年を記念した講演会「江戸の数学を学ぶ」が六日、昭和区鶴舞一の鶴舞中央図書館であった。

岐阜県関市の元数学教師の直井功さん(七〇)が会長を務める東海和算研究所が、日本古来の数学である和算に親しんでもらおうと企画。電気通信大の佐藤賢一准教授と四日市大の小川東教授が講師を務め、数学愛好者ら約五十人が耳を傾けた。

科学史が専門の佐藤准教授は、関孝和について残っている資料が少なく、生まれた年が分からないなどその生涯は謎に包まれている部分が多いことを紹介。小川教授は、関孝和の没後に弟子たちがまとめた「括要算法(かつようさんぽう)」の内容を解説した。

東海和算研究所は二月三日と三月二日にも同図書館で、和算をテーマにした講演会を開く。問い合わせは事務局の深川さん(六七)へ。(榊原智康)

関孝和の生涯について話す電気通信大の佐藤賢一准教授＝昭和区の鶴舞中央図書館で

中日新聞 市民 2008年(平成20年)1月7日(月曜日)